

愛知県豊橋市の農家が、農業の匠（たくみ）を誇って共同で情報発信をする「豊橋百農人のうじじい」を立ち上げた。ホームページ（HP）などでプロの技、こだわりを前面に出して消費者にPRする。販

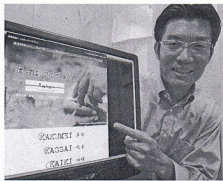
農業の匠 腕魅せる

売状況や百個人への貢献度を評価し、農家同士で競い合い、それを消費者に公開する仕組みを取り入れたのが特徴だ。今後、百個人を支援する消費者クラブを立ち上げるほか、通信販売も目指す。

販売力や意欲格付け

競争結果 HPに

100人会員目標



デザインにこだわった豊橋百農人のホームページをPRする事務局の清水さん（愛知県豊橋市出）

情報発信で“共同体”

愛知の農家

同市は農業生産額が全国トップクラス。品目をまたいだプロ農家が組織し、豊橋ブランドの進化も狙う。

仕組みは代表を務めるかんきつ農家の河合浩樹さん（47）が提案。産地人の3農家を含め大栗、柿、茶、花きなどプロ農家を認定した。いずれも無農薬栽培やJGAP（日本版農業生産工程管理）の導入などをしている。認定は東三河地域の農家が対象。情報発信への

意欲、資格など150項目。会後も、販売実績や活動から評価する。評価結果をホームページに掲載。PR方法の認定する。百個人へ入るほか、消費者の意見など、消費者に公開する。

河合代表は「互いに切磋琢磨（せつさくま）して活気ある活動をした

農家の前向きな取り組みに関心を寄せる。

い。農業という職業の価値を高めるのが目標」と意気込み。会員で月一回集まり、活動内容や方針を決める。来年をめぐってHPでの販売を始め、消費者による百農人サポーターズクラブも発足する。百個人まで。あと一歩。の後継者らによるグループ「百農人」設立や、農家のスタイルを評価する「ベストノージスト賞」など、層が厚い仕組みを考えている。農家会員は100人が目標だ。事務局として農家の評価にもかかわる市内のHP制作会社、都デザインの水水貴格代表は「農家は外見、心意気とも格好いい人が多い。個人のこと、農家の前向きな取り組みに関心を寄せる。